

いわみざわの民話

第18回

「いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。

砂金沢物語

いまの玉泉園をすこし東山峠の方に行った右側の丘陵地にこの付近で一番早く雪の融ける広い小高い斜面があります。丘の下にはきれいな小川が流れ、アイヌ達はポントネベツと名付けていました。

ポントネベツは美しい小石(今のチャスパ)でしたのたくさんある小川で、よく鹿や小鳥が遊びに来ていました。

アイヌ達はその広い小高い斜面に「やじり」などをつくる小屋を建てていました。何人かの若者はそこであつた「やじり」を持って近くの山に狩りに出かけ、たくさんの獲物を色々手掛けて毛皮などをつくるのでした。

そのポントネベツに落ちこむ小さな小川にはザリガニや緋どじょうがたくさんあそんでいます。
或る日、若い酋長のむすこが昼休み

にザリガニを採りに川の落口へ行って、あちこちと小石をかえしてたくさんのザリガニをとっていました。すると黄金色をしたザリガニが見つかりました。彼は喜んで持って帰り、仕事を休んでいた若者をあつめて見せました。その時黄金色をしたザリガニがいました。「若い酋長さま、私を助けて下さい。そしてあの小川であつたザリガニや緋どじょうをとらないで下さい」「そのお礼にどんなに雨が降らなくともポントネベツの水はかえることがないでしょう。又百年の間雨が降らなくともこの小川の水はかえることがないでしょう。」といいました。

で若い酋長のむすこは、黄金色のザリガニとかたい約束をして放してやりました。その後、この地方に入って来た和人がこの沢の魚をとると必ず砂金がついていました。和人はあつて魚をとって砂金をあつめました。いつかこの沢を砂金沢と呼ぶようになりました。和人はわれも、われもこの沢に入つて魚をとりました。そしてとうとうすべての魚をとってしまうしまいました。その時にはもうどこを捜しても砂金は見当らなくなりました。そして今までたくさんおよいでいた魚もザリガニも緋どじょうもいなくなりました。

いつかアイヌ族も狩に来ることもなくなり、唯小さな小川のせせらぎがあるだけになってしまいました。
砂金沢物語は古い時代の人々が語り伝えたお話です。

第19回は「恋沼物語」を紹介します。

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課

ひとの動き 平成23年7月31日現在

●住民基本台帳	人	口	総数 89,702人(前月比 - 39)
			男 42,080人(前月比 - 31)
			女 47,622人(前月比 - 8)
	世帯数		42,470世帯(前月比 + 22)

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
 ☎ 0126-23-4111 ㊚ 0126-23-9977
 ホームページ <http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>
 ▶救急当番医ガイド ☎ 0126-23-5153
 ▶消防テレホンガイド ☎ 0126-24-0119

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。